

2024 年度第 2 回町田市廃棄物減量等推進審議会 議事要旨

◇日時：2024 年 7 月 29 日（月）14：30 から 16：30 まで

◇場所：町田市役所 2 階 及び リモート開催

◇出席者

委 員：山下委員（会長）、江尻委員（副会長）、篠木委員、宮脇委員、清水委員、古舘委員、五十嵐委員、高橋委員、古澤委員、豊田委員

町田市：環境資源部長、循環型施設担当部長、環境政策課長、環境政策課温暖化対策担当課長、環境共生課長、ごみ収集課長、循環型施設管理課長、循環型施設整備課長 外

◇傍聴者：なし

<次 第>

1. 報告

- （1）ごみ量の推移と第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画の達成状況について
- （2）充電式小型家電の行政収集開始について

2. 議題

- （1）・2023 年度第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画の進捗点検の結果について
・「第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン」2023 年度・2024 年度事業計画についての意見に対する市の回答の説明
- （2）町田市食品ロス削減推進計画の進捗確認について

<資 料>

資料 1	ごみ量の推移と第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画の達成状況
資料 2	充電式小型家電の行政収集開始について
資料 3-1	2023 年度第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画の進捗点検の結果について（報告）（案）
資料 3-2	評価シート集計表
資料 4-1	事業計画に係る意見及び回答
資料 4-2	「第 2 次一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン」2023 年度・2024 年度事業計画
資料 4-3	2024 年度事業計画スケジュール表
資料 5	町田市食品ロス削減推進計画 2023 年度進捗確認票

1. 報告

(1) ごみ量の推移と第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画の達成状況について

＜資料1：ごみ量の推移と第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画の達成状況について環境政策課から報告＞

《意見》

- 委 員：6ページの③【全体目標3】にある温室効果ガスの排出量の推移は、2022年度に比べて2023年度は1割程減少しており、増減要因には「ごみとして処理する量が減少したことに伴い、焼却量が減少している」と書いてあるが、ここでの「ごみとして処理する量」は、「総ごみ量」を指しているのか。
- 環境政策課：2ページの表「資源とごみの内訳」の上部がごみ、下が資源というかたちで分けており、「ごみとして処理する量」は上部を指し、資源は含まれない数字になっている。ごみの量が2022年度には9万1千トンだったところが、2023年度には8万9千トンと、約2千トン程度減少していることを示している。
- 委 員：6ページの主な増減要因で、「焼却量に含まれる繊維類の割合が、2022年度と比較して減少しています。」と書いてあるが、この説明は何のことを指しているのか。
- 環境政策課：温室効果ガスの量を算定する際に焼却量に含まれるプラスチックと合成繊維の割合がどうかというところで見ている。表には載っていないが、繊維類の割合が2022年度は10%程であったのに対し、2023年度は6.7%と減少しているため、温室効果ガスの排出量の計算としては低く出ている。
- 委 員：2ページの「ごみの量の小計」という数字を見ると、2020年度をピークとして2023年にかけて減少している。この減り方と比べて、温室効果ガスの排出量の推移は全く異なる動きをしているが、それはどのように増減要因の説明と紐づくのか。
- 環境政策課：温室効果ガスの排出量を計算する際はピット内の組成を見ており、旧リサイクル文化センターでは、集まってきたごみをそのままピットの中に入れていた。2022年度から新たに稼働している町田市バイオエネルギーセンターでは、ピットの中から生ごみを中心にバイオガス化施設に移している。そのため、相対的に生ごみの量がピット内に少ない状況になっており、生ごみ以外のプラスチックや合成繊維の割合が比較的高く出ていることから、2021年と2022年の間に計算上、数字としては同じところをとっているようにとれていない事情がある。
- 会 長：それでもごみの量としては2020年度がピークになっているのに対し、温室効果ガス排出量が2022年度にピークが来る説明にはならないのではないかと。年毎の組成分析の結果等を、このデータと合わせて示した方が、内訳が分かりやすくなるため、次年度以降はこのような出し方にした方が良いかもしれない。
- 委 員：昨年の審議会ではプラスチックごみの割合が増加、繊維類は変わらずで、温室効果ガスが増加したという説明であったが、2023年度のプラスチックごみの割合はどうであったのか。
- 環境政策課：温室効果ガス排出量に関するプラスチックの割合については、細かい数字であるため資料には載せていないが、2022年度の19.9%に対して、2023年度は18.5%と1.5ポイント弱減少しているところが、排出量自体の低下の1つの要因となっている。

- 委員：3 ページ、5 ページで、火災の影響でバイオガス化施設が停止したため、生ごみのバイオガス化が 2022 年度と比較して 414 t 減少したとあるが、これはどこからの数字であるのか。
- 環境政策課：生ごみのバイオガス化量の 414t という数字については、バイオガス化施設でつくられたガスを重量で換算し、資源化量としてカウントしている。昨年 11 月の火災以降、ガスが出ていない状況であるため、その部分が 414t 分減少している理由となっている。
- 委員：町田市では CO2 をイチゴ栽培に利用しているが、審議会で話題にならないのはなぜか。実証期間が 2023 年度から 2026 年度ということで、バイオガス化施設が停止したことによる影響はあるのか。
- 循環型施設管理課：イチゴの実証実験に伴う CO2 の吸収量については、年間で約 240kg と大変少ない状況ではある。また、現在、バイオガス化施設が停止していることから、まずは焼却施設からの排ガスに含まれる CO2 を使用して行っている。来年の夏頃から、バイオガスで発電した排ガスを使用して実証実験を行う予定である。
- 会長：バイオガス化施設が稼働していた場合、リサイクル率はどのくらい改善していたのか数字は出せるのか。
- 環境政策課：もしバイオガス化施設が稼働しており、昨年度並みのバイオガスが出ていたとすると、資源化率としては 32.2%程度と推計をしている。
- 委員：私が最初に審議会に参加させていただいた時も、施設が停止していた。さらに、昨年 11 月からも停止しており、商人の立場からいくと非常に投資効率が悪いように感じる。復旧はいつ頃なのか、改善案はあるのか、この 2 点について伺いたい。
- 循環型施設管理課：町田市バイオエネルギーセンターについては、2022 年 1 月から稼働を開始し、これまで大きな火災事故が 4 回起きている。そのうち 3 回が不燃粗大設備、1 回がバイオガス化施設ということで、4 回ともはっきりとした原因は分かっていないが、リチウムイオン電池が原因と見られている。現在、バイオガス化施設については、来年の 6 月から 7 月頃の復旧を見込んでおり、1 年近く時間を要する状況である。その他については、概ね復旧は終わっている。改善案としては、未燃ガスを検知し、それに合わせて水を噴霧するような仕掛けを作る等、火災を早く検知して、すぐ消火ができるかたちで火災防止に努めている。
- 会長：次の報告事項にも関連することであるが、対策を行っていても、深刻な状況であることは変わらない。全体としては、ごみが減っており安心感はあるが、おそらく物価高の影響で消費が落ち込み、ごみも減ってきている部分があるため、油断せずにごみを減らす努力をしていかなければいけない。また、古紙等の分別協力率が下がっている点が気になる点でもあるため、引き続き対策を進めていただきたい。

（２）充電式小型家電の行政収集開始について

＜資料 2：充電式小型家電の行政収集開始について、ごみ収集課から報告＞

《意見》

- 会長：（2024 年 6 月 15 日号 ECO まちだより）町田市バイオエネルギーセンターでの火災が年間で 1200 件、単純計算すると 1 日に約 4 件発生しているという

状況は恐ろしい。また、原因物質の混入が 2023 年度で 26 万個もあるため、拠点だけではなく、行政回収でどこまでできるかというところではあるが、とはいえ、混ざらずに出てくるのが重要である。よろしくお願いいたします。

委員：行政収集の開始はとても良い取組であると思う。今まで拠点回収に持って行っていた人はかなり便利になると思うが、意識の低い人たちにどれだけ届くかが問題である。色々な広報活動等と組み合わせて行うのは理解できるが、26 万個がどのぐらいまで減るという想定でいるのか。

ごみ収集課：目標として数字をあげるのも 1 つであるが、住民の方々に手軽に出していただけるようにすることが第一である。また、ごみ収集車では、不燃の収集の際にも 1 つ 1 つ袋を破いて中身を確認しおり、通常の他自治体よりも時間をかけて取り除いているため、目指すのはゼロである。ここで数値の目標をかかげるよりも、ゼロを目指して全員で取り組んでいくというのが一番であると思う。

委員：これからも袋は破いて確認するのは続けていくのか。

ごみ収集課：続けていく予定である。

会長：収集でどのぐらいの量が集まってくるのかについて目安があっても良いと思うが、いかがか。

ごみ収集課：バイオエネルギーセンターに集められる小型家電が年間で 40t であり、これはごみの中に含まれているもの、拠点回収で集めたものを含めた数字である。現在の市民協力率 35% から計算すると、年間で約 14t 程度協力していただけるのではないかと考えている。

委員：資料 2 の「3 収集品目の例示」について、周知方法としてはチラシでの配布なのか。それとも集積所での掲示等、分かりやすく周知する工夫等はあるのか。

ごみ収集課：市民への周知については、市の広報媒体やチラシで回覧板を回していただくことを想定しており、集積所の掲示については、今のところ想定していない。

会長：集積所での掲示は、現実的には厳しいのか。

ごみ収集課：集積所のカゴに、イラストや写真の貼り付けを検討したが、カゴの底に貼り付ける場合、中身が入ると見えなくなってしまうため難しい。また、カゴの側面に貼り付けることも委託事業者と検討したが、カゴを 10 段程度重ねて戻ってくことを考えると、掲示物が傷んでしまい、その都度交換することになると費用もかかる他、廃棄物も出てしまうため、できるだけ広報媒体を駆使して周知していくという結論に至った。

委員：「3 収集品目の例示」がベースとなってアプリ等に記載と思うが、現在、モバイルバッテリーが例示に書かれていないため、SNS やアプリ等では例示していただく方が良いのではないか。

ごみ収集課：モバイルバッテリーに関しては、2022 年度から既に有害ごみの電池に含めて収集を実施しているが、今回は充電式小型家電の収集ということでお知らせをしているため、例示の中には含めていない。

会長：既に収集をしていますが、混入しているものが 26 万個の中のかかなりの数であるため、そこは深刻に考えなければいけない。

ごみ収集課：モバイルバッテリーについては、利用者が非常に多いものであるため、今後、広報・周知活動を行ううえで、分かりやすい例の 1 つとして例示することを

検討していきたい。

委員：この取組は、大変素晴らしいと思っている。市民周知について、どうやって収集を行うかを伝えることも勿論であるが、「一回集めてみたらこのくらい集まりました」、「これだけ火災が減っているようです」というような、推測値でしかあり得ないと思うが、実施したことによってどのように状況が変わっていくのかについても併せて、今後も継続的に市民の方に伝えていくと、市民のやる気がより起こるのではないかな。ぜひとも上手くいくようにと思っている。

ごみ収集課：今のご意見を参考にし、今後の周知啓発については、成果の情報等も併せてご報告させていただき、分別の協力をさらに進めてまいりたい。

委員：集合住宅は、近年、特に高齢者が多く、リチウムイオン電池がどのようなものなのか、どういうものに入っているのか、分別についての初歩的なことから分かっていない。この部分をどうにかしないといけないのではないかな。混入しないように私たちがなるべく見るようにしているが、収集時において、余程大きなものでない限りは、袋を破いて中身を確認したりせず、そのまま持っていく収集業者もいる。

ごみ収集課：今回例示しているものは、現在流通しているリチウムイオン電池や充電式小型家電のごく一部であるため、市民の皆様を知っていただけるよう、行政としても継続的にお知らせをしていく。ただ、お知らせも紙媒体や電子媒体を使うだけではなく、実際に相談会の開催やイベント出展を行い、直接人対人でお知らせをするような手段も含めて取組んでいきたい。なお、今年度からごみ収集課では、広報チームをつくり、紙媒体や電子媒体を効果的に使い、市民の方々により深くご理解いただけるような取組も始めている。2点目について、リチウムイオン電池については、収集車でごみがひっかかり発火し、火災が起こるリスクがあるため、5月に3日間にわたり委託業者も含めた勉強会を開催した。約140名程度の方に参加していただき、リチウムイオン電池の基礎知識からみんなで学び、火災を防いでいく取組を行った。勉強会についても、第2弾以降も考えていきたいと思っているため、市民、事業者のご協力を得ながら、火災対策に取組んでいきたい。

委員：モバイルバッテリーの話が出ていたが、有害ごみ・電池で回収されている中身の組成については確認されているのか。特に、モバイルバッテリーがどのくらいの数出ているのか教えていただきたい。また、このような数値があるのであれば、広報の際に、「このくらいの数が有害ごみに出されているため、さらにきちんと分けてください」といった周知ができれば良いのではないかな。

ごみ収集課：確認する。

会長：8月からの収集も含め、新しい施策の効果を確認するために必要なデータであるため、よろしく願いいたしたい。また、26万個の中にはスプレー缶等も含まれているようであるため、その中に電池がどのくらいの量あるのか等も併せて出していただくと、苦労がどう変わるかということを検証できると思うため、併せてよろしく願いいたしたい。

委員：行政が回収することは悪いことではないが、携帯電話会社が回収する取組もあるため、そちらも併せてPR・宣伝し、すべてを行政で抱え込まないようにしていただくことが良いと思う。もう一点、ここに出てくるゲーム機やスマートフォン、タブレット端末等、有価で取引ができそうなものや、回収後に

資源化して有価になるものに関しては、集積所で集める際に、場合によっては抜き取り被害が出る可能性もあるため、そのあたりのことも含め、対策を事前に考えた方がよい。

ごみ収集課：携帯電話については、製造業者が自主回収するシステムも進んでいるため、そのような紹介も併せて行っていきたい。また、小型家電を集積所で回収する際の抜き取り等のリスクについては、集積所での小型家電収集を実施している他自治体にいくつか状況を確認したところ、小型家電を理由に起こっている問題は特にないとの話は伺っているが、集積所での回収にあたっては、対策の方をしっかりと行っていきたい。

2. 議題

(1) <前半>2023 年度第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画の進捗点検の結果について

<資料 3-1：2023 年度第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画の進捗点検の結果について
(報告) (案) >

《意見》

委 員：資料 3-1 の評価について、各委員の評価の平均点が数値化されているとのことだが、2 ページ 5 行目の「各委員の評価をもとに、平均値及び意見等を踏まえ審議会としての評価としました」という文章だと、平均値だけではなく、意見等も踏まえて、また他の評価をつけているという意味合いになってしまっている。これはあくまで平均点だけではないのか。

環境政策課：結果としては、平均点で決めることにさせていただいたが、評価の内容等を含めたところで、「平均及び意見等を踏まえ」というように書かせていただいた。

会 長：「各委員の評価をもとに」という記述に、委員の意見も踏まえてという意味合いも入っているため、「平均値を審議会としての評価とする」に修正しても良いのではないのか。

環境政策課：そのように修正する。

<資料 3-2：評価シート集計表>

《意見》なし

(2) <後半>「第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン」2023 年度・2024 年度事業計画についての意見に対する市の回答の説明

<資料 4-1：事業計画に係る意見及び回答>

<資料 4-2：「第 2 次一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン」2023 年度・2024 年度事業計画>

<資料 4-3：2024 年度事業計画スケジュール表>

《意見》

委 員：資料 4-1、2 ページのごみ減量サポーターについて、どのような活動を行っているのか市の HP で活動報告等を探してみたところ、2022 年の 6 月から 2 年ほど情報が更新されておらず、掲載されていた内容も 1 ページ、1 事例しかない。これでごみ減量サポーターの活動について市民に理解してもらうのは難しいと思うが、何か対応策はないのか。

環境政策課：記載している回答をなぞる部分はあるが、次回発行するごみナクナ〜レで

は、現在活動されている南つくし野のごみ減量サポーターを取材させていただき、紹介する。これから積極的に活動紹介していく予定である。

委員：意見でも書いたが、静岡市では定期的に活動報告会を行っていることから、ごみ減量サポーター同士が話し合っ意見て意見を共有するような機会を設けることが望ましいのではないか。市が後押ししなければ、サポーターも積極的に意見を交換したり、どのように活動していけば良いかを考える動きにならないのではないか。

環境政策課：全体連絡会や研修会等、全員にお集まりいただくような機会を設けてはいるが、その中でワークショップのようなサポーター同士が話し合う機会が今はないため、このような機会が可能かどうか検討させていただきたい。

会長：サポーター数、具体的な活動内容、それが経年的に活動が盛んになっているのか、落ち着いてしまっているのか等の情報を含めて、まずは整理をしたうえで、この施策は大丈夫か示していただくことになるのかと思う。ここは検討するのが良いのかと思う。

委員：資料 4-2 の 12 ページ、容器包装プラスチックの分別協力率について、1 月に多摩 26 市で調査を行ったとあるが、せっかくそのような調査をしたのであれば、審議会で調査結果等をご報告いただけないかと意見欄に記入したが、実際に報告はしていただけないのか。

環境政策課：今回の調査では、各市の容器包装プラスチックの収集量について調べ、それをもとに分別協力率を想定で計算した。2026 年度からの市全域での容器包装プラスチック収集開始に向けて、実際に分別協力率が高い自治体ではどのような取組を行ったのか、これから後追いで調査しようと考えているため、その結果がまとまり次第、審議会でのご報告させていただきたい。

委員：資料 4-2 の 24 ページ、4-1-3 資源化施設の整備の 2024 年度の事業計画について、相原地区の土地の取得については現在 3 件残っているが、スケジュールでは 9 月頃までに問題解決予定となっている。調整について、差支えがなければ教えていただきたい。

循環型施設整備課：残り 3 件について、今折衝中である。9 月前ということで、なんとか調整したい。

委員：見込みとしてはどうなのか。

循環型施設整備課：まだはっきりとは言えないが、難しいところもあるため、丁寧に説明をさせていただいている状況である。

（2）町田市食品ロス削減推進計画の進捗確認について

＜資料 5：町田市食品ロス削減推進計画 2023 年度進捗確認票＞

《意見》

委員：資料 5 の家庭用生ごみ処理機の補助台数と、資料 4-2 の 10 ページ「2024 年度の事業計画」に関係するが、300 台補助している家庭用生ごみ処理機のほとんどはダンボールコンポストではなく、電動式である。家庭で電気エネルギーを使用して生ごみの量を減らし、結果として残った一次生成物は引き取り手がおらず、量を減らしたうえでごみとして出すため、確かに市が回収するごみの量は減るが、家庭では電気エネルギーを消費している。このように家庭で電気エネルギーを使用し、ごみの量を圧縮して市が収集するのと、ごみの量を減らさずそのまま収集するのと、どちらが全体として環境負荷がか

からないのか。300 台を補助しているということにどれくらいの意味があるのかお聞きしたい。

環境政策課：生ごみ処理機の取組について、実際に八王子市では電気式のもの対象外としているが、町田市ではごみ量を減らすというところを現在優先して行っている。ダンボールコンポストであれば電気を使用せず、ごみそのものがなくなるため、一次生成物の使い道を広げられれば理想的であるが、現状では両方を補助し、まずは重量を減らすところを進めている。

委員：現状はよく分かった。ただ、試算はしていないのか。

環境政策課：試算はしていない。

委員：現在の市の方針として、まずは量を減らすために補助をすることは良いと思うが、実際に電気エネルギーを消費することで、どのくらいの環境負荷がかかっているのかということは、この施策を見直す時に、継続するか否かの判断に関わるため、計算だけはしておいていただきたい。また、事業系の生ごみについても、特に大規模な事業所ではなく、小規模な事業所に対しては、海老名市では生ごみ処理機の補助を出している。事業所への補助は検討したのか。

環境政策課：事業所に補助を出すか出さないかについて、検討してはいるが、今はリサイクル施設を案内する等、直接捨てないようにというところに力を入れている。3R 賞を受賞された万葉の湯さんは、生ごみをたい肥化している点で評価している。このような取組事例も案内をして、事業所に啓発していきたい。

会長：食品ロスダイアリーの作成は、夏休みに間に合うのか。ぜひ小学生の夏休みの自由研究の一環のような感じで、子どもにやってもらうのが良さそうであるが、いかがか。

環境政策課：食品ロスダイアリーについては、全国的に存在しているもので、環境省のHP等では既に掲載されているものである。現在、町田市版を作成しようとしているが、そちらについては夏休みに間に合わない予定であるため、既にあるものを周知していければ良いと思う。

会長：せっかくなので競争的にして、夏休み中に小学生のいる家庭で取組んでいただき、その中から良い取組を選んで表彰するといったような活用の仕方もあるのではないかと。今年度、間に合わなければ、ぜひ来年度に向けて検討いただければと思う。

委員：昨年の審議会の中で、事業所向けに何かコンテストのようなものを行ったかとかと話をしたが、事業所のこういった流れはまだ確認されていないと思う。レンブラントホテルのパーティーで、大体6割から7割の食べ残しがあったと聞いた。商工会議所は特に食品・飲食業部会の加盟率も高いため、ぜひとも事業所へ向けた取組をご説明していただきたい。将来どれだけの効果があるか見えないが、商工会議所では様々な面で表彰する取組はあるため、削減率何パーセント、フードロス取組ナンバーワン店舗、表彰制度など、ぜひ様々な取組を事業所向けにやっていただきたい。せっかく取組むのであれば成果を出していきたいと思うため、今後ともよろしく願いしたい。

環境政策課：市役所の集まり等では、終了の30分前頃に、フードロスという表現で食べきりようアナウンスをして、なるべく捨てないような動きが起こっているため、市役所以外にも、広めていけたら良いのではないかと。

委員：ぜひ、広報していただきたい。300名程度集まる商工会議所の35周年記念事

業で、ホテル側からビュッフェ形式で提案があったが、ビュッフェ形式だと食べ残しがある。いつも最初になくなるのが寿司ということで、今回の 35 周年は寿司だけにしたが、フードロスなく終わると思う。色々な事業所が集まるので、30 分以内はみんなでご飯を食べて食品ロスをなくしましょう、もしくはパックで持ち帰れるようにしましょうといった取組を、ぜひ広報してやっていきたい。

委員：市民アンケートで協力率等をそれぞれの項目でいくつも求められていたが、先程、達成がなかなか難しいという話をされていた。回答数や配布数も数値に大きく影響するため、回答数が少ないとどうしても年度ごとに大きな振れ幅が出てしまうというところ、あまり数値の細かなところにこだわらなくとも良いのではないかなと思う。

環境政策課：今回の計画を作成した際に、行動変容に移るための指標をどのようにしたら良いのか悩んだところではあった。効果がどうやって出るのかというところで、どうしても市民の割合については無視できないため、参考にする指標となっている。イベント等や市全体で行っていく市民アンケートの中に加えていく方法しかないというところ、行ったものについては継続性で持って変化を見ていく必要があるため、今回の傾向として、ごみが減っているのに市民の意識は低下したという状況であったことから、引き続き工夫はしていかなければいけない。いただいた意見からすると、大きな目で見ながら課題を拾うようなかたちで、アンケートを使っていく必要があると思う。

会長：この市民アンケートは、単独で、毎年取っているのか。また、何枚撒いて、回収率がどのくらいであるかについて数字を確認できればと思う。

環境政策課：アンケートは食品ロスに関する項目だけではなく、環境に関する市民アンケートということで生き物、大気等の様々な項目があるなかから、食品ロスに関わる部分を抜粋して使用している。調査対象は 15 歳から 80 歳までの市内在住者を無作為抽出で 3000 人抽出している。直近の 2023 年度から 2024 年度の調査は、回収率が 36%程度であり、回収率自体は例年このくらいの数字である。

委員：大雑把に言うと 50%は対策を行っているということで、素晴らしいのではないかなという感覚である。

委員：資料 5 の食べきり協力店の 2024 年度、2025 年度の目標店舗について、今年の実績と比べるとかなり目標値が高いが、目途はついているのか。

環境政策課：大変苦しいところではあるが、2025 年度に向けて大きく掲げた目標であった。実際に、フードシェアリングサービスを導入し、登録している事業者に地道にお願いをして増やしたというところではあるが、商工会議所にもご協力をいただきながら、様々なところでご案内し、なんとかしていきたいと回答を作ったところではある。

<総括>

会長：全体を通して、なにか意見等あるか。

委員：全体的な意見として、市民への周知方法を色々やっているが、どこまで市民に伝わっているのかの把握が難しい。弊社の事業所の従業員 5 人に、ごみナクナ〜レとは何か知っているか尋ねたところ、分かる人がいなかった。広報を見たり、SNS の情報を収集したりという意識がある人にしか、リチウムイ

オン電池のせいで町田市の施設で火事が起こり、使えない状況にあるといったことを周知できない。そのようなことを知らなくても関係ないくらいに思われているのではないのかと思っている。また、高齢化社会において高齢者の方が SNS を使用して情報を収集できるかというとなかなか難しいと思う。周知については、今後の課題であり、非常に重要なポイントであるため、周知方法をみんなで考えて行っていく必要があるのではないかと前回の審議会から思っている。事業者としても可能な限り協力したいと考えている。

<事務連絡>

事務局：第 3 回審議会の開催時期については、決まり次第お伝えする。内容としては、第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプランの次期計画策定に向けた課題整理を行う予定である。

環境資源部長：本日は、活発なご意見いただきありがとうございました。報告事項が 2 点ということで、1 点目のごみ量については、町田市としてはごみ量を減らし、資源化率を高めていきたいということで、2020 年度をピークに減少傾向が続いている状況である。2 点目の充電式小型家電の行政収集については、新たな取組であるが、回収率を高め、火災を予防することで実績を上げていきたい。この 2 点については、皆さんからご意見をいただき、現状をよく分析して、どうやって市民の皆様伝えていくのかというところを今後も検討していきたい。市役所として、市民周知について、関心のある方にしか届かないということは廃棄物関係だけではなく、全テーマで課題となっている。委員の皆様からご意見をいただき、よりこちらから届くようなかたちで、成果を上げていきたいと思う。引き続きご意見をお願いしたい。また、本日の議題 2 点については、1 点目の進捗状況の点検は、1 点だけ修正のご意見をいただいた。そちらを修正し、最終的には委員に確認をしていただき、審議会の皆様から市長宛に報告書を提出していただくこととなる。2 点目の食品ロスの進捗についても、事業所の取組というところでご意見をいただいた。良い取組を行っている事業所に対しての評価、表彰も含めて検討していきたいと思っているため、引き続き、相談をさせていただきながら、施策に展開していきたい。本日は長時間にわたり、ご議論いただきありがとうございました。

会長：終了宣言